Ⅵ 配水管

1. 配水管延長及び属具調

（１）口径別・管種別　　（単位：m）

口径別（㎜） ＼ 項目		年度当初	当年度中				年度末延長	合計
			施設整備事業増分	寄附等	撤去	増-減		
2,000	ＤＣＩＰ	1,662	－	－	－	－	1,662	1,662
	ＳＰ等	－	－	－	－	－	－	
1,800	ＤＣＩＰ	896	－	－	－	－	896	917
	ＳＰ等	21	－	－	－	－	21	
1,500	ＤＣＩＰ	20,869	411	－	－	411	21,280	21,412
	ＳＰ等	132	－	－	－	－	132	
1,350	ＤＣＩＰ	20,086	－	－	－	－	20,086	20,086
	ＳＰ等	－	－	－	－	－	－	
1,200	ＤＣＩＰ	23,593	－	－	－	－	23,593	24,729
	ＳＰ等	1,136	－	－	－	－	1,136	
1,000	ＤＣＩＰ	62,677	65	429	△25	469	63,146	63,429
	ＳＰ等	283	－	－	－	－	283	
900	ＤＣＩＰ	6,103	－	－	－	－	6,103	6,115
	ＳＰ等	12	－	－	－	－	12	
800	ＤＣＩＰ	11,240	－	－	－	－	11,240	11,240
	ＳＰ等	－	－	－	－	－	－	
700	ＤＣＩＰ	108,986	－	－	－	－	108,986	110,149
	ＳＰ等	1,163	－	－	－	－	1,163	
600	ＤＣＩＰ	4,990	4	－	－	4	4,994	4,995
	ＳＰ等	1	－	－	－	－	1	
500	ＤＣＩＰ	87,353	887	－	－	887	88,240	88,614
	ＳＰ等	374	－	－	－	－	374	
450	ＤＣＩＰ	246	－	－	－	－	246	246
	ＳＰ等	－	－	－	－	－	－	
400	ＤＣＩＰ	35,248	28	－	－	28	35,276	35,657
	ＳＰ等	381	－	－	－	－	381	
350	ＤＣＩＰ	53,660	－	1	△771	△770	52,890	55,733
	ＳＰ等	2,843	－	－	－	－	2,843	
300	ＤＣＩＰ	137,730	1,822	－	△3,340	△1,518	136,212	137,542
	ＳＰ等	1,339	42	－	△51	△9	1,330	
250	ＤＣＩＰ	101,253	257	－	△724	△467	100,786	101,297
	ＳＰ等	511	－	－	－	－	511	
200	ＤＣＩＰ	601,657	10,915	214	△11,127	2	601,659	604,110
	ＳＰ等	2,451	－	－	－	－	2,451	
150	ＤＣＩＰ	444,614	3,158	25	△5,309	△2,126	442,488	446,034
	ＳＰ等	3,574	－	－	△28	△28	3,546	
125	ＤＣＩＰ	592	－	－	－	－	592	652
	ＳＰ等	60	－	－	－	－	60	
100	ＤＣＩＰ	3,083,745	29,564	1,100	△23,495	7,169	3,090,914	3,094,657
	ＳＰ等	3,770	9	－	△36	△27	3,743	
75	ＤＣＩＰ	275,124	511	17	△3,108	△2,580	272,544	272,617
	ＳＰ等	46	27	－	－	27	73	
小計	ＤＣＩＰ	5,082,324	47,622	1,786	△47,899	1,509	5,083,833	5,101,893
	ＳＰ等	18,097	78	0	△115	△37	18,060	
	計　①	5,100,421	47,700	1,786	△48,014	1,472	5,101,893	5,101,893
補助管	75	14,373	995	316	△8	1,303	15,676	15,676
	50	848,001	4,622	2,141	△2,876	3,887	851,888	851,888
	小計　②	862,374	5,617	2,457	△2,884	5,190	867,564	867,564
計	①　＋　②	5,962,795	53,317	4,243	△50,898	6,662	5,969,457	5,969,457

注１）ＤＣＩＰ＝ダクタイル鋳鉄管（鋳鉄管ＣＩＰを含む）、ＳＰ＝鋼管

注２）管工事計画・設計・施工（基準・要領集）の平成27年８月１日改訂により、口径75㎜以下の樹脂系管路については、「配水補助管」とすることとした。

注３）令和６年度以降の年度末配水管布設延長には、流入管及び連絡管を含まない。

（２）区別

（単位：m）

項目／区別	年度当初	当年度中							年度末延長
		施設整備事業増分				寄附	撤去	増−減	
		配水管	配水管更新	調整区域	補助管	その他			
中央	(553,975)	(77)	(778)	(−)	(2)	(215)	(△1,386)	(△314)	(553,661)
	584,887	77	859	−	103	430	△1,394	75	584,962
北	(713,790)	(1,204)	(5,825)	(−)	(3)	(634)	(△7,184)	(482)	(714,272)
	884,248	1,367	6,321	−	926	1,480	△8,304	1,790	886,038
東	(676,086)	(763)	(5,679)	(−)	(3)	(93)	(△6,449)	(89)	(676,175)
	821,932	763	6,016	−	778	612	△6,787	1,382	823,314
白石	(531,571)	(−)	(1,757)	(−)	(3)	(360)	(△2,224)	(△104)	(531,467)
	631,339	−	2,170	−	311	375	△2,679	177	631,516
厚別	(348,835)	(−)	(4,186)	(−)	(1)	(379)	(△5,054)	(△488)	(348,347)
	400,476	−	4,296	−	284	405	△5,135	△150	400,326
豊平	(461,435)	(270)	(5,025)	(−)	(1)	(2)	(△5,045)	(253)	(461,688)
	519,059	270	5,100	−	111	143	△5,171	453	519,512
清田	(382,013)	(579)	(3,850)	(−)	(−)	(−)	(△3,908)	(521)	(382,534)
	437,747	634	3,973	−	80	−	△4,071	616	438,363
南	(525,524)	(238)	(9,657)	(−)	(1)	(52)	(△8,879)	(1,069)	(526,593)
	595,624	253	10,076	−	37	246	△9,379	1,233	596,857
西	(503,856)	(73)	(4,864)	(−)	(2)	(79)	(△4,934)	(84)	(503,940)
	599,761	73	5,086	−	274	283	△4,992	724	600,485
手稲	(403,336)	(70)	(2,789)	(−)	(0)	(1)	(△2,950)	(△90)	(403,246)
	487,722	70	3,009	−	0	269	△2,986	362	488,084
合計	(5,100,421)	(3,274)	(44,410)	(0)	(16)	(1,815)	(△48,013)	(1,502)	(5,101,923)
	5,962,795	3,507	46,906	0	2,904	4,243	△50,898	6,662	5,969,457

注１）（ ）内は、補助管（樹脂系75ｍｍ以下）を除く延長である。

注２）配水管には、ブロック工事による布設分を含む。

注３）令和６年度以降の年度末配水管布設延長には、流入管及び連絡管を含まない。

（３）配水管属具調

項目＼年度		5		6		7	
		増 − 減	年度末	増 − 減	年度末	増 − 減	年度末
消火栓	単口	16	13,708	24	13,732	26	13,758
	双口	△ 15	3,748	△ 17	3,731	△ 17	3,714
	計	1	17,456	7	17,463	9	17,472
仕切弁	消火栓弁	5	17,479	7	17,486	9	17,495
	仕切弁	221	64,311	76	64,387	185	64,572
	排水弁	0	458	0	458	0	458
	計	226	82,248	83	82,331	194	82,525
空気弁		3	2,340	7	2,347	7	2,354

2. 緊急貯水槽

設置年度	設置箇所	場所	貯水容量（㎥）	対応人口（人）	形式	備考
昭和62年度	水道局本局庁舎	中）大通東11丁目23	700	77,000	パイプ	
昭和63年度	新琴似庁舎	北）新琴似6条2丁目1-1	400	44,000	パイプ	
平成元年度	北18・東5（旧東庁舎）	東）北18条東5丁目3	400	44,000	パイプ	
平成２年度	豊平庁舎	豊）豊平8条10丁目2-1	400	44,000	パイプ	
平成３年度	厚別庁舎	厚）厚別中央4条6丁目2-1	400	44,000	パイプ	
平成５年度	八軒庁舎	西）八軒6条西2丁目1-5	300	33,000	パイプ	
平成７年度	川沿庁舎	南）川沿2条2丁目2-7	400	44,000	ポンプ井	
平成８年度	手稲稲積公園	手）前田1条5丁目1	100	11,000	パイプ	
平成９年度	篠路ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	北）篠路3条8丁目11-1	100	11,000	パイプ	以降、国庫補助事業により実施
	鉄興公園	西）発寒12条11丁目4	100	11,000	パイプ	
	清田市民交流広場	清）平岡1条1丁目2	100	11,000	パイプ	
平成10年度	厚別西公園	厚）厚別西3条3丁目3	100	11,000	パイプ	
	屯田西公園	北）屯田４条10丁目1	100	11,000	パイプ	
	伏古公園	東）伏古1条2丁目1	100	11,000	パイプ	
平成11年度	あいの里北公園	北）あいの里3条5丁目10	100	11,000	パイプ	
平成12年度	はんの木公園	白）本通14丁目北3	100	11,000	パイプ	
	篠路駅前西公園	北）篠路4条3丁目2	100	11,000	パイプ	
	元村公園	東）北28条東18丁目3	100	11,000	パイプ	
平成13年度	丘珠小学校	東）丘珠町593番地	100	11,000	パイプ	
	百合が原小学校	北）百合が原6丁目5-1	100	11,000	パイプ	
平成14年度	新川中央公園	北）新川４条14丁目5	100	11,000	パイプ	
	栄中学校	東）北46条東6丁目1-1	100	11,000	パイプ	
平成15年度	菊水元町すずらん公園	白）菊水元町3条4丁目2	100	11,000	パイプ	
平成16年度	前田中学校	手）前田７条13丁目1-1	100	11,000	パイプ	
	東月寒中学校	豊）月寒東3条18丁目1-72	100	11,000	パイプ	
平成17年度	栄南緑地	東）北36条東20丁目2	100	11,000	パイプ	
平成18年度	屯田南小学校	北）屯田5条4丁目6-1	100	11,000	パイプ	
平成19年度	厚別公園	厚）上野幌3条1丁目2	100	11,000	パイプ	
	明日風公園	手）明日風2丁目5	100	11,000	パイプ	
平成20年度	新陵小学校	手）新発寒6条6丁目3-1	100	11,000	パイプ	
平成21年度	北郷小学校	白）北郷4条5丁目1-1	100	11,000	パイプ	
	札苗東公園	東）東苗穂14条4丁目2	100	11,000	パイプ	
平成25年度	星置中学校	手）星置3条5丁目13-1	100	11,000	パイプ	
	伏古みみずく公園	東）伏古14条5丁目4	100	11,000	パイプ	
平成26年度	発寒中学校	西）発寒5条7丁目1-1	100	11,000	パイプ	
	平岸小学校	豊）平岸2条14丁目1-28	100	11,000	パイプ	
	白石区複合庁舎	白）南郷通1丁目南8-1	100	11,000	パイプ	
平成27年度	美しが丘シープヒル公園	清）美しが丘2条5丁目1	100	11,000	パイプ	
平成28年度	月寒公園	豊）美園10条8丁目1	100	11,000	パイプ	
	宮の森グリーン公園	中）宮の森2条3丁目3	100	11,000	パイプ	
	拓北公園	北）拓北5条5丁目1	100	11,000	パイプ	
平成29年度	東川下公園	白）川下4条4丁目2	100	11,000	パイプ	
計	42箇所		6,500	715,000		

3. 年度別配水管維持管理作業状況

項目		年度 3	4	5	6	7
施設状況	配水管延長 (km)	5,237	5,240	5,240	5,100	5,102
	消火栓 (基)	17,463	17,455	17,456	17,463	17,472
	仕切弁 (個)	81,780	82,029	82,244	82,320	82,505
	空気弁 (個)	2,328	2,337	2,340	2,347	2,354
配水管維持	折損 (件)	18	33	23	16	22
	移設 (件)	54	54	62	63	41
	継手修理 (件)	16	10	10	22	19
	布設替工事 (m)	6,409	3,608	4,158	2,152	1,082
	撤去工事 (m)	7,280	3,183	3,527	2,092	408
仕切弁	新設 (件)	150	60	112	70	19
	撤去 (件)	137	63	69	55	12
	取替 (件)	1	4	4	4	
	修理 (件)	6	12	2	6	16
	計 (件)	294	139	187	135	47
空気弁	新設 (件)	3	2	1	1	4
	撤去 (件)		1	2		1
	取替 (件)	2		2	17	
	修理 (件)	6	7	7	1	1
	計 (件)	11	10	12	19	6
筐類整備	筐類整備 (件)	1,511	1,762	1,358	1,484	1,402
	鉄蓋取替 (件)					
	計 (件)	1,511	1,762	1,358	1,484	1,402
消火栓維持	折損 (件)	97	88	80	100	91
	移設 (件)	86	80	55	53	36
	凍結 (件)	4	6	6	2	2
	新設 (件)	5	7	8		1
	取替 (件)	9	11	5	7	4
	撤去 (件)	7	3	8	2	3
	掘上げ修理 (件)	7	2	9	6	56
	弁新設 (件)	2	3	4		
	小計 (件)	217	200	175	170	193
	一般修理 (件)	247	241	239	255	199
	計 (件)	464	441	414	425	392
洗管作業	配水管 (件)	10	24	17	13	11
	実施延長 (km)	23	75	45	31	14
	濁水処理 (件)	13	37	21	51	22

注１）配水管延長は、平成26年までは50㎜以下、平成27年以降は樹脂系75㎜以下を除いた数値である。
注２）仕切弁等とは、消火栓用弁、仕切弁及び排水弁の合計である。
注３）令和６年度以降の配水管延長には、流入管及び連絡管を含まない。

4. 年度別洗管作業状況

年度	回数	実施延長 (A)	年度末配水管延長 (B)	(A)/(B) (%)	備考
26	63	238,700	5,201,544	4.6	南17条西8～9丁目、小金湯33番地、藤野3条4丁目、簾舞4条1丁目、あいの里1～5条1～10丁目、篠路町拓北、篠路町福移、拓北6～8条1～5丁目、北4～14条東6～17丁目、北18条西4丁目、月寒中央通1～8丁目、月寒中央通11丁目、月寒西1～5条5～11丁目、月寒東1～5条3～12丁目、美園1～3条1～8丁目、美園12条8丁目、豊平1～6条1～13丁目、豊平8～9条8～10丁目、水車町1～2丁目、旭町1丁目、西岡2条1丁目、西岡4～5条2～3丁目、福住2～3条3～4丁目、中の島1～2条2～3丁目、栄通1～3丁目、北郷3～9条7～10丁目、川北1～3条1～2丁目、南郷通15～16丁目南、稲穂1～4条1～8丁目、金山1条1丁目、新発寒1～4条1～4丁目、前田1～3条1～3丁目、前田4～5条13～15丁目、八軒1～2条西1～4丁目、八軒3～5条西1～11丁目、八軒6～10条西1～9丁目、発寒3～6条3～9丁目、山の手1～2条7～11丁目、八軒1～4条東2～4丁目
27	65	179,000	5,209,634	3.4	南9～11条西18丁目、白川1814番地、定山渓579-1番地、北12条西4丁目、北22条西3丁目、北23条西5丁目、篠路3～7条1～3丁目、新川645番地、北6～13条東1～7丁目、北31条東27丁目、八軒5条東3丁目、発寒17条4丁目、宮の沢2条1～5丁目、宮の沢3条2～5丁目、宮の沢4条4～5丁目、西宮の沢5～6条1～2丁目、富丘3～4条1丁目、前田6条15～16丁目、美園3～12条1～8丁目、平岸3～6条1～7丁目、豊平4～8条5～13丁目、中の島2条2丁目、美しが丘1～5条5～9丁目、真栄4～5条3～5丁目、南郷通1～3丁目南、本郷通1～3南、本通1～3丁目南、南郷通1～3北、本郷通1～3丁目北、上野幌1～3条1丁目、上野幌1条2丁目、大谷地東6丁目、厚別中央1～2条1～3丁目、厚別中央3条2～3丁目、厚別西3条2～3丁目、厚別西4条3～4丁目、厚別西5条3～6丁目
28	36	101,800	5,217,046	2.0	北1条東8丁目、北5条西28～29丁目、北6条西28丁目、宮の森1～2条1～5丁目、宮の森1～2条11～12丁目、宮の森3条1～6丁目、藤野3条4丁目、白川1814番地、拓北1～5条1～4丁目、篠路9条6丁目、篠路町拓北6番地、篠路町篠路38番地、前田1～7条1～10丁目、平岡2～5条1～6丁目、平岡4条7丁目、平岡6条1～4丁目、里塚2～4条1丁目、福住2～3条10～11丁目、福住3条12丁目、西岡4条9丁目、西岡5条11丁目、月寒中央通3～7丁目、月寒東1～2条16丁目
29	34	100,900	5,223,975	1.9	澄川4条7丁目、澄川4～6条8～9丁目、澄川4条11丁目、澄川5～6条11～12丁目、新琴似1条2丁目～1条10丁目、新琴似2～4条2～10丁目、新川2条7丁目～2条10丁目、新川3条6丁目～3条10丁目、新川4条5丁目～4条10丁目、篠路3条3丁目～3条6丁目、篠路4条4丁目～4条6丁目、篠路5条4丁目～5条6丁目、篠路6条5丁目～6条6丁目、篠路8条1丁目～8条4丁目、篠路9条1丁目～9条4丁目、西茨戸2条1～2条2丁目、西茨戸6条1丁目、西茨戸7条1、東茨戸1条1～1条3丁目、東茨戸2条1～2条3丁目、東茨戸3条1～1条2丁目、東茨戸4条1、篠路町篠路、八軒6～7条西1～3丁目、八軒8条西1～4丁目、八軒9～10条1～5丁目、美園9～12条7丁目、美園11～12条6丁目、平岸4～6条9丁目、平岸5条8丁目、平岸6条10丁目、西岡1条8～10丁目、西岡2条8丁目
30	39	3,634,000	5,229,740	69.5	No.9ブロック、No.10ブロック、No.11ブロック、No.8Wブロック、No.7Wブロック、No.7Eブロック、里塚配水池系地区、宮の森地区宮の森1～2条11～12丁目、澄川地区4～5条2～5丁目、北24～30条東8～12丁目、篠路1～8条、新川1～5条、北24～27条西14～18丁目、北15～23条東16～23丁目、月寒東2条～5条、もみじ台西1丁目～厚別南3丁目、北15条東1～10丁目、川下4条4丁目、南16条西13丁目～南11条西10丁目、石山東5丁目～真駒内南町6丁目
元	20	90,500	5,231,431	1.7	澄川4～5条2～5丁目、真駒内柏丘1～12丁目、太平1条1丁目～太平8条4丁目、太平7条5丁目～太平7条7丁目、太平8条1丁目～太平12条7丁目前田3～6条9～10丁目、西野1～2条1～9丁目、西町南1～21丁目月寒東3～4条8～11丁目、北野3～7条1～3丁目西野1条6丁目～9丁目、北15～43条東10丁目、北15条東1～10丁目
2	23	75,000	5,237,422	1.4	富丘4-1・4-2・5-3、福移1丁目、西岡5条11～14丁目、豊平6条2丁目、水車町2丁目、羊ヶ丘7-1～西岡5条14丁目、宮の森、No.97E、No.79ブロック、No.22ブロック、No.20ブロック、No.8Eブロック、No.52Nブロック、南区(第3送水管)
3	10	23,000	5,237,578	0.4	南の沢地区、美園地区、水車町3丁目8、上野幌地区、石山東1～5丁目、真駒内南町6～7丁目、真駒内柏丘11丁目、厚別南1丁目～、北野6条5丁目、No.18ブロック
4	24	75,000	5,239,527	1.4	真駒内本町1～5丁目、藤野4条11丁目、簾舞3～6条1～2丁目、澄川4～5条11～12丁目、水車町3・5・7丁目、里塚1条2丁目～4丁目、北15条東8・9丁目～北43条東8・9丁目、発寒9条14丁目～発寒10条14丁目、西宮の沢2条1丁目、新発寒1条1丁目、No.21ブロック、No.24ブロック、No.27ブロック、No.10ブロック
5	17	45,000	5,240,124	0.9	伏見2～4丁目、藤野4条11丁目、簾舞3～6条1～2丁目、No.27ブロック、美園8・9・11条8丁目、美園9～12条7丁目、平岡1条1～4丁目、美園12条8丁目、平岸8条12・13丁目、月寒西3～5条6丁目、美園4条5丁目、美園5条7・8丁目、平岸4条13丁目
6	13	31,000	5,100,421	0.6	伏見2～4丁目、石山1条6丁目、常盤1条2丁目・2条1～2丁目、北11～22条西13～21丁目、藤野4条11丁目、簾舞3～6条1～2丁目、東雁来7条1丁目、北野3条3丁目、美しが丘4条5丁目他、大谷地東2丁目、平岡2条3丁目～里塚
7	11	14,000	5,100,380	0.3	石山3条6丁目、藤野4条1丁目～4条11丁目、あいの里2～4条5～7丁目、あいの里3～4条2～4丁目、真栄1条1丁目他、月寒東1条17丁目、平岸5条10丁目他、月寒西5条6丁目他、大谷地東1丁目他、平岡2条3丁目～里塚

注) 配水管延長は、平成26年までは50㎜以下、平成27年以降は樹脂系75㎜以下を除いた数値である。

５．配水管布設材料等の推移

項目		年度 S30 S40 S50 S60 H10 R5	備考
管種	Ｃ．Ｉ．Ｐ （鋳鉄管）	昭和12年 ― 昭和45年3月	本市水道事業の創設期から使用された管種（ＪＥＳ第80号規格）
	Ａ．Ｃ．Ｐ （石綿セメント管）	昭和28年4月 ― 昭和41年3月	旧藻岩水道・豊平町・手稲町で主に使用された管種
	Ｓ．Ｔ．Ｐ．Ｗ （塗覆装鋼管）	昭和33年4月 →	導・送水管に使用 （推進・水管橋・施設場内等）
	Ｓ．Ｕ．Ｓ （ステンレス管）	昭和60年4月 →	主に水管橋に使用
	Ｖ．Ｐ （硬質塩化ビニール管）	昭和41年9月 ― 昭和50年3月	施工性・経済性が優れている。配水管に一部使用実績あり。
	Ｄ．Ｃ．Ｉ．Ｐ （ダクタイル鋳鉄管）	昭和34年4月 →	S34．4　口径500㎜以上に採用 S45．4　全面採用、現在に至る。
	Ｐｅ．Ｐ （ポリエチレン管）	昭和48年4月 →	S48．4　試験的採用 S50.11　口径50㎜の本格採用 H 3．4　二層管へ移行
	Ｐｅ．Ｈ （配水用ポリエチレン管）	平成19年9月 → 平成25年4月	H19.9　試験的採用 H20.3　口径50㎜の本格採用 耐震性、耐浸透性、流量特性の向上により二層管50㎜から全面採用 H25.4　口径75㎜の試験的採用 H27.8　口径75㎜の本格採用
継手類	Ｃ形継手 （印篭形鉛コーキング）	昭和12年 ― 昭和38年3月	新設はS9.4～S35.3まで、また維持管理はS38.3まで使用していた。
	Ａ形継手	昭和34年4月 ― 平成8年3月	H8年度からＫ形に全面移行 （在庫分のみ使用）
	Ｋ形継手	昭和46年4月 →	ゴム輪の緊密性に優れ、当初は400～900㎜に使用。H8年度より耐震化の一環として、配水支管に全面使用。
	Ｔ形継手	昭和48年4月 →	施工性・経済性から75～200㎜に採用
	Ｓ・ＳⅡ形継手	昭和55年2月 →	特に、耐震性の要求される管路、軟弱地盤地域に採用 ○ＳⅡ　φ75～450㎜に採用 ○Ｓ　φ500～2,600㎜に採用 ○ＵＳ　φ700～2,600㎜に採用
	ＵＳ形継手	平成5年3月 →	
	ＮＳ形継手	平成10年12月 →	特に、耐震性の要求される管路、軟弱地盤地域に採用 H10.12　φ75～250㎜採用 H21．3　φ300～400㎜採用 H22.11　φ500～1000㎜採用
	ＧＸ形継手	平成23年9月 →	H23.9　口径75～300㎜の試験的採用 H28.4　口径75～300㎜の本格採用 R5.4　口径350～400㎜の追加採用

項目 ＼ 年度	S30 S40 S50 S60 H10 R5	備考
	Ｕ・ＵＦ形継手	昭和44年4月 →	掘削幅の軽減・危険防止・経済性から主として1,000㎜以上に採用
継手類	ＫＦ形継手	昭和56年2月 →	特に、耐震性の要求される管路、軟弱地盤地域に採用　φ400㎜以上
継手類	ＰＩ形継手	平成元年5月 →	廃止管内に新管を挿入するパイプインパイプ工法用の継手。耐震性を必要とする場合にＰⅡ型を使用する。
継手類	ＰⅡ形継手	平成8年 →	
継手類	ＰＮ形継手	平成20年3月 →	パイプインパイプ工法用の継手。耐震性能としての離脱阻止力がＰⅡ形の2倍。φ300～1500㎜に採用。
推進管	Ｈ．Ｐ（ヒューム管）	昭和40年4月 →	推進工法用鞘管として採用
推進管	Ｄ．Ｃ．Ｉ．Ｐ（φ800㎜以上）	昭和44年4月 →	鞘管を使用しない推進工法用管
推進管	Ｓ．Ｔ．Ｐ．Ｗ	昭和44年4月 →	鞘管を使用しない推進工法用管
推進管	Ｄ．Ｃ．Ｉ．Ｐ（φ150～700㎜）	昭和58年4月 →	鞘管を使用しない推進工法用管
塗装	タール	昭和12年 → 昭和42年3月	リッピング工法で、直管の管内外面の塗装として採用
塗装	モルタルライニング	昭和42年4月 →	直管の水質保全・管体保護の対策として採用
塗装	タールエポキシ	昭和55年2月 → 平成3年3月	異形管・弁類の塗装に使用
塗装	エポキシ樹脂粉体	昭和56年4月 →	異形管の内面塗装として採用（現在は弁類他に広く使用） R5.4 直管の口径75～350㎜の内面塗装として採用
塗装	液状エポキシ樹脂	平成3年5月 →	φ1,650㎜以上の異形管・鋼管・水道用材料の内面塗装に使用

	項目	年度 S30 S40 S50 S60 H10 R5	備考
その他	仕切弁	昭和12年 →	鋳物製の弁で、故障が少なく維持管理が容易。H3年度からソフトシール仕切弁が適当でない個所に使用（材質FC） H18.9　FC製を廃止し、FCD製へ移行
	ソフトシール仕切弁	平成3年4月 → 令和5年4月 (GX形)	H3年度から、開閉時の赤水軽減のために採用（φ75～350㎜、材質FCD） R5年度からGX形を採用（φ75～350㎜）
	バタフライ弁	昭和38年4月 →	藻岩第三導入路に使用、安全性が高く大口径管路に採用開始
	副弁内蔵バタフライ弁	昭和54年4月 →	狭隘な弁室用に採用 S60年度より改良型採用
	不断水式バタフライ弁	昭和52年4月 →	下野幌幹線700㎜使用 弁を管路に不断水で挿入
	不断水式仕切弁	昭和54年5月 → 平成17年8月 (EM)	弁体だけを管路に不断水で挿入 （H4 不断水工法の施工性向上） H18年度より、従来より止水性が向上するソフトシール弁体挿入タイプを採用したが、管体直角方向において作業幅を要する
	割Ｔ字管 （不断水分岐工法）	昭和40年8月 →	作業の軽減対策として採用
	ポリピッグ	昭和52年4月 → 平成3年 / 平成9年4月 →	・水質保全を目的として採用され老朽管の洗浄に広く使用 ・H9年度から管布設工事（φ75～350）に伴う洗管作業に使用
	管更生	昭和59年 → 平成3年	老朽管の更生工事として採用
	ポリエチレンスリーブ	昭和53年 →	継手部分（S53）管体（S58）の腐食防止に採用（H5 全市に拡大）
	丸形弁室用鉄蓋	昭和59年4月 →	角形の弁室用鉄蓋と比較して止水性に富み、弁室落下がない